

2-エトキシエチルニアセートの分解度試験成績報告書

(通称エチルグリコールアセート)

エチルグリコール

1. 試験期間 昭和50年8月1日～昭和50年12月5日
2. 試料名 2-エトキシエチルニアセート(試料No. K-118)
(通称エチルグリコールアセート)
分子式 $C_6H_{12}O_3$
構造式 $CH_3COOCH_2CH_2OC_2H_5$

エチルグリコール

3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号

薬 発 第 6 / 5 号

49基局第392号

微生物等による化学物質の分解度試験による

3.1 試験装置

酸素消費量自動測定機

3.2 酸素消費量測定

3.1の記録による

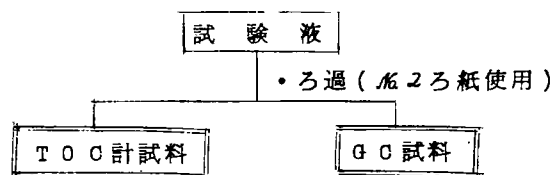
3.3 生分解試験後の直接定量法

(a) 使用分析機器

全有機炭素分析計

ガスクロマトグラフ 検出器 FID

(b) 分析試料の前処理



(c) 分析条件

全有機炭素分析計 (TOC計)

流速 TOC回炉 200ml/min

温度 TOC炉 900℃

ガスクロマトグラフ (GC) 検出器 FID

キャリアガス N_2

充てん剤 クロモソルブ 101

ガラスカラム 2mmφ×1m

カラム温度 138℃

4. 試験結果

	分解度 (%)	付 図	付 表
酸素消費量による結果	86.9	1	—
TOC計による結果	99.0	2	1
GCによる結果	100	3	2

5. その他

直接定量においてGCによる水系の残留率が73%しかないのはK-118が加水分解し酢酸とエチレングリコールモノエチルエーテルとして残留するためである。本試験のGCチャートでは、酢酸は検出限界未満のためチャート上に表われなかったが、この水系の試験液を約10倍濃縮しGCにて測定した結果加水分解生成物の一部である酢酸を確認した。

以 上